



Interview  
No. 1  
いこま棚田クラブ  
棚田と里山の整備・利活用

# 地元と協力しながら、 荒廃した棚田を整備し、 美しい里山を再生する

石積みの美しい棚田と里山が広がる生駒市西畑町は、日本の原風景が残る名所です。しかし近年、過疎化が進み、休耕地が増えたことにより荒廃が進んできました。そこで地元自治会の要請に応じて約20年前に自然環境保全ボランティア「いこま棚田クラブ」が発足。この歴史ある地域の景観を残すためのさまざまな取組みが今も続けられています。

## 由緒ある美しい棚田を後世に残したい

「いこま棚田クラブ」は、「NPO法人シニア自然大学校」のOBと地元自治会が協議して、2003年に設立しました。現在まで約20年間、自然環境保全を目的とした景観整備の活動を続けております。当初の会員数は15名ほどで、竹の伐採と草刈り、農作業のお手伝いをして、地元自治会との友好関係を深めました。会員の増加に伴い、耕作放棄地の一部を利用して、農作物の畑にしたり、花の種を植えて花畑にしたり、菜の花栽培や山野草・果樹園コーナーを作

るなどして、環境整備の範囲を広げていきました。毎年10月～翌年2月の期間は、里山林の整備・間伐を実施。現在の活動範囲は、約5ヘクタールです。また、芋堀、稲刈り、椎茸の菌打ちなど、さまざまな自然環境学習の体験会にも取り組んでいます。

現在、会員は約70名で、そのうち3割が奈良県の



自然環境保全ボランティア  
いこま棚田クラブ  
会長・新居 延之さん



方で、7割が大阪府を中心にお住まいの方です。会費は無料。週1回の定例活動日は、自由参加となっています。会員のみなさんは、作物の成長を見守り、自然に触れることを楽しんでおられます。ご自身の健康のために参加されているという方も多くいらっしゃいます。新規会員の募集は随時行っており、「NPO法人シニア自然大学校」の新メンバーに声をかけるほか、「いこま棚田クラブ」のホームページから問い合わせいただくなどして、まずは体験入会を実施しています。作業内容によって得意、不得意がありますので、各自の意思を尊重することを大切にしております。

## 地元自治会との信頼関係を築くことが大切

住民の方とのコミュニケーションを築くために、地元自治会と「いこま棚田クラブ」で、年間4～5回の「共同草刈」と「水路清掃」を実施しています。地域全体の草刈を一緒にすることで連帯感が生まれます。また、12月には作物の収穫祭を行うことによって、懇親と感謝を共有しています。

これまでの活動で成果があったと感じるのは、伝統行事である西畑町の「大とんど」を復活できたことです。旧年の古神符や正月のメ飾りなどを焼いて、その年の五穀豊穡と健康を祈るという毎年1月に行う行事ですが、300本ほどの竹を伐採してやぐらを組み立てるのが大変で途絶えていました。「いこま棚田クラブ」の参加によって復活したことで、集落を出られたご家族の方々が一時帰省されるなどのよい機会となっています。

活動を長く続けていくためには、地域の特性を理解し、問題の中身をお互いに確認し合いながら話を進めていく必要があると考えます。こちらを信用し

ていただくためには、やはり基本ではありますが、挨拶に始まる親密さが重要なと思います。活動をしてみて良かったと思うことは、地元自治会の方から、「いこま棚田クラブ」があるのでこれだけの景観が維持されている、と感謝の言葉をいただけることです。

## 後継者の育成が今後の課題に

西畑町の自然保護活動をこれからも継続していくことが、住民の方々からも望まれています。しかし、会員のほとんどがシニア世代で、平均年齢が70歳台の後半にあり、後継者の育成が急務となっています。今後の展望としては、現状維持を前提に、こうした問題に対して、一つひとつ地道に対処していきたいと思っています。

